

## 2018年度第2回関東フットサル審判員研修会レポート

フットサル2級 中村 翔

平成30年11月23日(金)～25日(日)、12月1日に山梨県にある昭和町総合体育館で、JFA第24回全日本U-15フットサル選手権大会関東大会及び第9回全日本U-15女子フットサル選手権大会関東大会が行われ、関東地域の審判員を対象とした2018年度第2回関東フットサル審判員研修に参加させていただきました。

男子8名女子3名計11名の研修生が参加者し、関東サッカー協会フットサルビーチサッカー部会及び1級インストラクターの7名の講師の方々によりご指導いただきました。

審判研修は11月23日(金)～25日(日)の3日間で行われ、1日目に昭和町総合体育館に集合して顔合わせから始まり、夕方まで関東フットサルビーチサッカー協会強化育成部長松井隆氏のもと、講義や競技規則テストを行いました。夕方からは山梨県協会の方々と大会用のピッチ作りを実施後に、作成したピッチでボールと笛を使い決められた条件で笛を吹く頭の体操や、地元チーム協力のもとで、コーナーキックの監視や終了ブザー前後のシュートの見極め、際どい得点の見極めといったプラクティカルトレーニングを行いました。

2日目と3日目は大会の審判を実施し、各インストラクターからアセスメントを受けました。個人的には、今大会の第一試合目を担当させていただきました。第一試合から白熱した試合展開で担当していてやりがいを感じました。しかし課題は山積みで、手の不正使用、アドバンテージのタイミングや声(近年「プレーオン」ではなく「アドバンテージ」と言う)など細かい部分まで指導していただき、今後改善・向上をしていくためのアドバイスをいただきました。また、キックインやコーナーキックで再開する際に、蹴るポイントを示して相手競技者を5m先に離すことで試合時間をコンパクトにし、スムーズな再開ができること、サイドステップや細かいポジション修正をすることで、次のシーンへの移動やカウンターなど瞬時の移動が必要なシーンでも視野のぶれや身体の動きを最小限にとどめることができ、判定や対応がしやすくなるなど、今研修会では改めて実感し、新たな考え方を学ぶことができました。

今研修会で他都県協会の審判員との交流など普段と違う環境や意識をもつことができ大変有意義な3日間でした。

今回の関東研修会参加にあたり、関東サッカー協会、山梨県サッカー協会、千葉県サッカー協会、大会運営関係者の皆様にご配慮いただき心より感謝申し上げます。

## 研修



フットサル3級 奈須 聡子

この度、2018年11月24～25日に山梨県昭和町体育館にて行われました関東フットサル審判員研修会に参加させていただきました。

前日23日より研修がありましたが、自身の都合上24日より合流となりました。両日、朝のモーニングトレーニングから始まり、朝食後会場に移動し、ピッチ確認、ミーティング、割当確認がありました。

ミーティングでは前日の復習を含め、〈反則はどのようなタイミングで起こるのか〉〈再開方法〉の説明や、〈手の反則〉〈攻守の切り替わりで起こる反則〉等を映像で見ながら確認し、選手面、審判面の両面から学ぶことができ、良いイメージを持って試合に入ることができました。

いつも以上に緊張しましたが、両日第2審判と第3審判を精一杯務めさせて頂きました。研修会に参加している審判員のほとんどが経験豊富な2級の審判員で、第3審判は初めてでしたが、一緒に組ませて頂いた審判員の方にフォローして頂き、務めることができました。試合後にはインストラクターの方よりご指導いただき、大変勉強になりました。

初日の反省点として、〈キックインのスムーズな再開方法〉〈目標地点に追いつくため、体力を消耗させないための走り方〉をアドバイス頂き、翌日はアドバイスを意識して取り組み、スムーズに試合を進めることができました。

最後に『チームの利益はシュートを打つことではなく、得点をとること!!』インストラクターによるこの言葉がとても印象に残りました。私は審判活動を始めてからずっと〈反則を見極めること〉が課題です。相手競技者の何らかの力によって体勢が崩れてしまっても選手が倒れていない場面、迷い、笛を吹きそびれている自分が思い浮かびました。選手の気持ちになり、選手が倒れてない場面でも反則を見極められるよう、今回の研修会で学び感じたことを今後の活動に活かしていきたいと思えます。

そして、他県の経験豊富な審判員の方と交流が深められたこと、ご指導頂きましたこと、このような大変貴重な経験をさせて頂きましたこと、研修会でお会いした審判員、インストラクター、そして千葉県サッカー協会審判員の方々に感謝いたします。ありがとうございました。